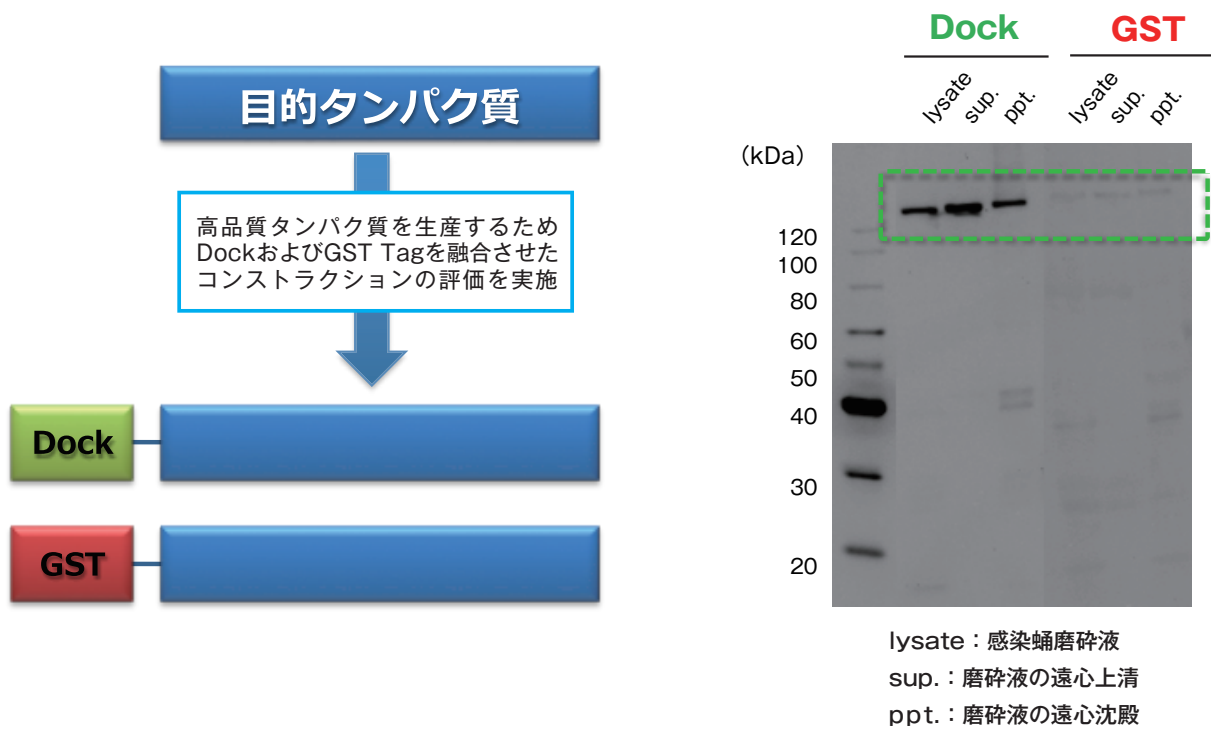


ProCube アプリケーションノート

Pro³ 融合 Tag の違いによる発現量評価

ProCube

近年、リコンビナント技術の発達により、タンパク質材料を大量に使用する研究が盛んになってきています。リコンビナントタンパク質を効率的に生産するために、Tag融合や部分発現（トランケート）など様々な工夫が行われます。ここでは、2種類のTag融合による発現量の違いについて示しており、今回用いた約130 kDaのタンパク質では、Dock Tag融合型において好成績を示しました。条件はタンパク質によって様々であるため、このようなタンパク質デザインをより多く検討することが重要です。



融合Tagの種類によって発現量は大きく異なる ⇒ より多くのコンストラクションの条件検討がキーポイント。

ProCube

Harness the Power of Nature

カイコーバキュロウイルス発現系を用いたリコンビナントタンパク質発現受託



Codon Optimization



Gene Synthesis



Plasmid Subcloning



Tag Construction



Recombinant Virus



Protein Expression



Affinity Purification



Tag Cleavage



Polishing Step Purification



Certificate of Analysis



Immobilization

ProCube についての詳細は procube.sysmex.co.jp

メールでのお問い合わせは... procube.japan@sysmex.co.jp

製造販売元

シスメックス株式会社

本社 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-1 〒651-0073

バイオテクノロジーセンター 神戸市西区室谷 1-1-2 〒651-2241 Tel 078-991-2212 Fax 078-992-1082

東京支社 東京都品川区大崎 1-2-2 〒141-0032 Tel 03-5434-8556 Fax 03-5434-8557

www.sysmex.co.jp